

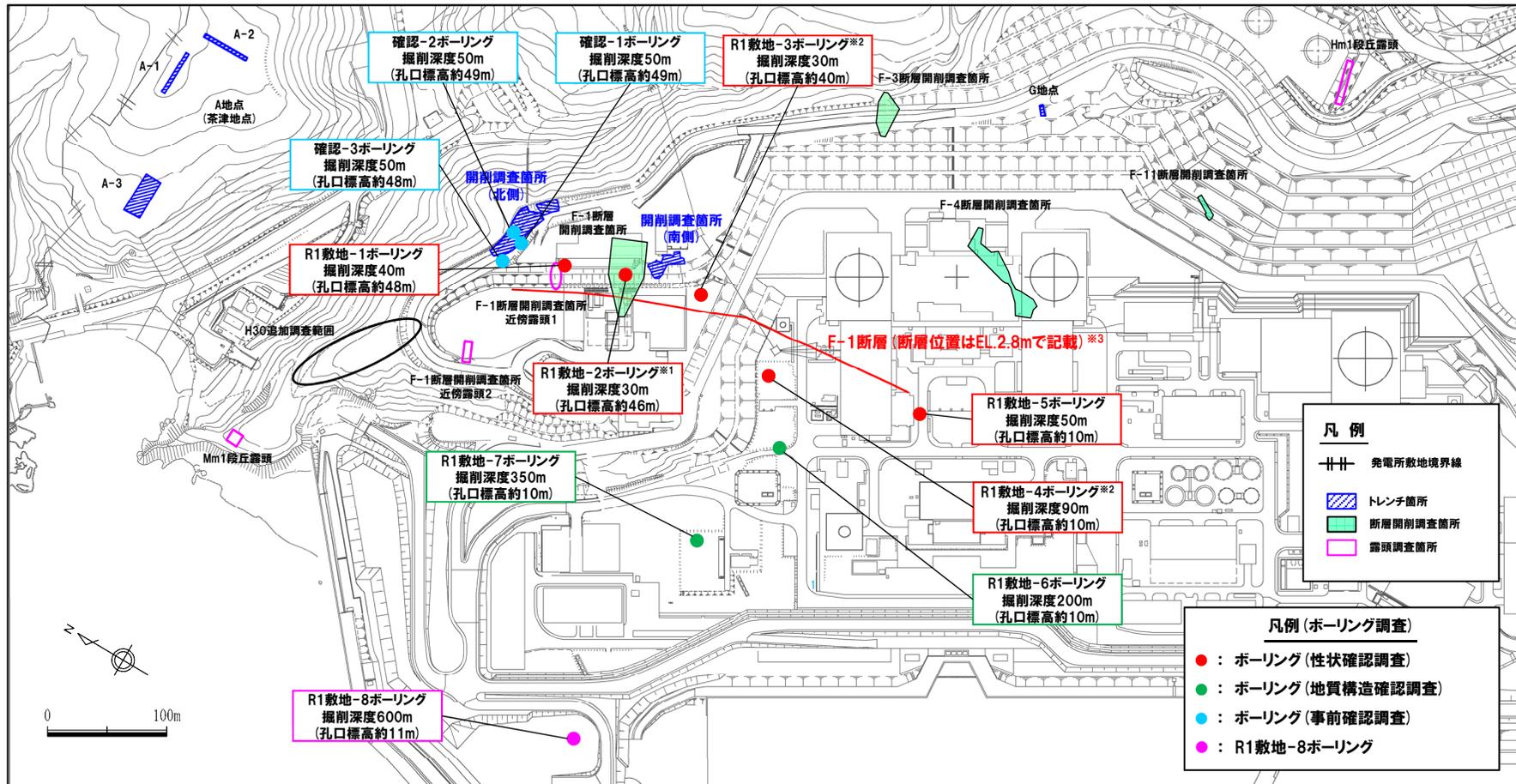
4. 各ボーリング孔において認められる劣化部の評価 及びF-1断層の認定

4. 各ボーリング孔において認められる劣化部の評価及びF-1断層の認定

ボーリング位置図

一部修正 (R2/4/16審査会合)

○性状確認調査及び地質構造確認調査として実施したR1敷地-1～R1敷地-7ボーリング, R1敷地-7ボーリングに認められる劣化部の連続性を確認するために実施したR1敷地-8ボーリング並びに開削調査位置の選定を行うための事前確認調査として実施した確認-1～確認-3ボーリングの位置を下図に示す。



※1 R1敷地-2ボーリング (φ86) は、F-1断層開削調査箇所と同位置で実施していることから、F-1断層の性状確認の基本となるため、別孔 (R1敷地-2'ボーリング: φ116) も掘削している。
 ※2 当該ボーリングは、F-1断層の性状確認を主目的として実施するが、調査結果は、反射法地震探査結果との対比にも用いる (6章参照)。
 ※3 F-1断層の線形及び長さについては、F-1断層の活動性評価に関する追加調査結果 (本編資料5.2章) を踏まえ、本頁に示すものから見直しを行っている。詳細については、5章参照。

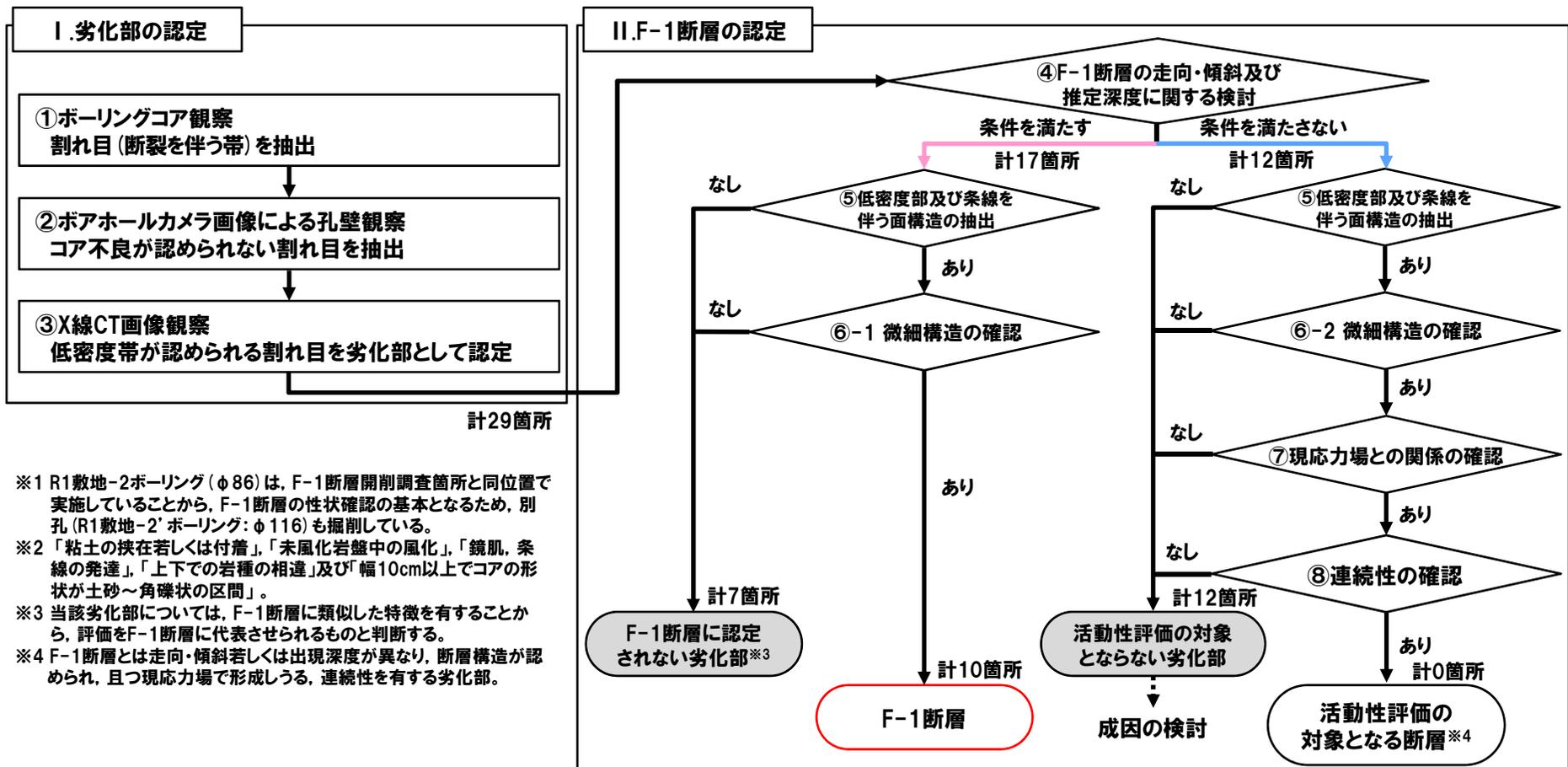
余白

4. 各ボーリング孔において認められる劣化部の評価及びF-1断層の認定

F-1断層の認定手順 (1/2)

一部修正 (R1/11/7審査会合)

- 1,2号炉調査及び3号炉調査の認定手順に基づき、R1敷地-2' ボーリング※1調査において認められるF-1断層の特徴を踏まえ策定したF-1断層の認定手順を下図に示す。
- F-1断層の認定手順のうち、ボーリングコア中の劣化部の認定については、まず、ボーリングコア観察により割れ目を抽出するが、抽出に当たっては、以下の段階を踏んでいる。なお、劣化部については、R1敷地-2' ボーリング調査において認められるF-1断層の特徴に基づき、「未固結な粘土を挟在若しくは付着する割れ目及びその周辺に分布する節理、裂かを伴う帯」と定義している。
 - ・割れ目の抽出にあたっては、3号炉調査時の認定手順における割れ目の特徴※2に着目し、割れ目を抽出。
 - ・このうち、劣化部の定義に基づき、軟質粘土が挟在若しくは付着し、且つその周辺に節理若しくは裂かを伴うものを抽出。
- 上記の手順において認定された劣化部及び評価結果をP261に示す。



F-1断層の認定手順(2/2)

一部修正(R1/11/7審査会合)

I. 劣化部の認定

① ボーリングコア観察

● 割れ目(断裂を伴う帯)を抽出

3号炉調査時の認定手順における割れ目の特徴である「粘土の挟在若しくは付着」、「未風化岩盤中の風化」、「鏡肌、条線の発達」、「上下での岩種の相違」及び「幅10cm以上でコアの形状が土砂～角礫状の区間」について着目する

② ポアホールカメラ画像による孔壁観察

● ポアホールカメラ画像観察により、①で抽出した割れ目において、以下の特徴を有するものを抽出

・コア不良が認められず、抽出した割れ目と同様の特徴が孔壁に認められる

● 上記特徴を有する割れ目について、走向・傾斜を計測

③ X線CT画像観察

● 以下の特徴を有する割れ目を劣化部として認定

・未固結な粘土を有すると考えられる低密度帯

II. F-1断層の認定

④ F-1断層の走向・傾斜及び推定深度に関する検討

● ③で認定した劣化部のうち、F-1断層と類似する走向・傾斜を有し、且つ推定深度付近に出現するものをF-1断層の可能性を有する劣化部として判定

a. 走向・傾斜

1,2号炉調査結果に基づくF-1断層の走向・傾斜より $\pm 15^\circ$ の範囲内^{※5}

※5 1,2号炉調査において確認されたF-1断層の走向・傾斜は「N8° E~20° W/43° ~54° W」であり、走向で約30°、傾斜で約10°のばらつきが認められる。
このため、既往のF-1断層の走向・傾斜にそれぞれ $\pm 15^\circ$ を加えた範囲に該当するものを類似したものとみなす。

b. 推定深度

1,2号炉調査結果に基づくF-1断層の走向・傾斜より推定される深度付近^{※6}

※6 地質構造確認ボーリングについては、1,2号炉調査結果に基づくF-1断層の分布と離隔があるため、走向・傾斜のばらつきを考慮し、より広い範囲に注意を払う。

⑤ 低密度部及び条線を伴う面構造の抽出

● X線CT画像観察及び条線観察により、以下の特徴を確認

a. 低密度帯中に連続する直線的な低密度部

b. 条線及び鏡肌を有する連続する直線的な面構造

● 上記の「a」且つ「b」の特徴が認められる破砕帯を抽出^{※7}

※7 「b」のみが明瞭に確認されない場合においては、隣接するボーリング地点の状況等を考慮する。

⑥-1 微細構造の確認

● 薄片観察により、⑤で抽出した破砕帯に含まれる低密度部及び面構造の微細構造について、以下の特徴を確認

a. 逆断層センスの複合面構造

b. 最新活動ゾーン^{※8}

● 上記の「a」且つ「b」の特徴が認められる破砕帯を抽出

※8 明瞭に連続する直線的な構造で、他の粘土状破砕部やせん断面に切断されていないもの。

⑥-2 微細構造の確認

● 活動性評価の対象となる断層の認定手順となるため、⑥-1に示す特徴からF-1断層の特徴である「逆断層センス」を除外し、微細構造について確認

⑦ 現応力場との関係の確認

● 抽出された破砕帯の運動センスが東西圧縮の現応力場で形成されるかを検討

⑧ 連続性の確認

● 同様な性状が認められる破砕帯が隣接する複数のボーリング孔や試掘坑等において認められる場合、活動性評価の対象となる断層として認定

劣化部の評価結果 (1/2)

- P258～P259に示すF-1断層の認定手順に基づき認定された劣化部の評価結果を次頁に示す。
- 各劣化部の評価結果の詳細については、以下の頁を参照。

【F-1断層の可能性を有する劣化部】

- ・R1敷地-1ボーリング (P296～P303)
- ・R1敷地-2'ボーリング (P263～P295)
- ・R1敷地-3ボーリング (P304～P317)
- ・R1敷地-4ボーリング (P318～P331)
- ・R1敷地-6ボーリング (P346～P359)
- ・確認-1 (別孔) ボーリング (P360～P373)
- ・確認-2ボーリング (P374～P387)
- ・確認-3ボーリング (P388～P401)

【F-1断層の可能性を有する劣化部とは判定されない劣化部】

- ・R1敷地-1ボーリング (P405～P412)
- ・R1敷地-3ボーリング (P413～P414)
- ・R1敷地-4ボーリング (P415)
- ・R1敷地-7ボーリング (P416～P439)
- ・R1敷地-8ボーリング (P441～P445)
- ・確認-1 (別孔) ボーリング (P446～P447)

- なお、R1敷地-5ボーリングには、劣化部は認められないが、本ボーリングに関する詳細観察結果については、P332～P345参照。

4. 各ボーリング孔において認められる劣化部の評価及びF-1断層の認定

劣化部の評価結果 (2/2)

ボーリング孔	F-1断層の 推定深度 (m)	劣化部中に認められる 破砕帯の確認深度 (m)	④ 走向・傾斜の整合			推定深度 との整合	⑤ 低密度部 の有無	面構造 の有無	⑥-1,⑥-2 複合面構造 の有無	最新活動 ゾーンの有無	運動センス	⑦ 現応力場 との関係	⑧ 連続性 の確認	F-1断層 認定箇所	成因の検討
			走向	傾斜	判定										
R1敷地-1	26	17.60	N58E	49E	×	○	×	評価の妥当性確認のため実施 ^{※5}						活動時期が古い断層	
		17.72	N85E	30E	×	○	×								活動時期が古い断層
		27.89	N9W	50W	○	○	○	○	○	○	○	逆断層		○	
R1敷地-2'	18	14.25	(参考) ^{※4} N11W/58W N13W/53W		○	○	×	×	×	×					
		14.30		○	○	×	×	×	×						
		14.57		○	○	○	○	○	○	逆断層			○		
		14.65		○	○	○	○	×	×						
		14.79		○	○	×	×	×	×						
R1敷地-3	21	10.57	N24W	65W	○	○	○	○	○	×					
		12.51	N30W	58W	○	○	○	○	○	○	逆断層			○	
		16.33	N18E	77W	×	○	×							活動時期が古い断層	
		18.10	N14W	70W	×	○	×							変質帯	
R1敷地-4	50	48.39	N7W	56W	○	○	○	○	○	○	逆断層			○	
		49.45	N2W	44W	○	○	○	○	○	○	逆断層			○	
		64.84	N13W	80W	×	×	×							変質帯	
R1敷地-6	106	133.65	N27W	66W	○	○	○	○	×	×					
		134.81	N5W	63W	○	○	○	○	○	○	逆断層			○	
R1敷地-7	230	286.25	N75W	37W	×	×	×	隣接するボーリングにおいて、 性状を対比できない状況を考慮し実施 ^{※6}						変質帯	
		286.67	N80W	41W	×	×	×							変質帯	
		295.55	N42W	26W	×	×	○	×	○	○	○	正断層	×		活動時期が古い断層
		295.56	N56E	22E	×	×	○	×	○	○	○	逆断層	×	×	活動時期が古い断層
R1敷地-8 ^{※1}		368.64	N68W	57W			×	○						活動時期が古い断層	
確認-1 ^{※2,3} (別孔)	17	5.35	N31W	40W	○	×	×								変質帯
		6.41	N15W	61W	○	×	○	○	×	×					
		6.56	N13E	43W	○	×	×								変質帯
確認-2 ^{※2}	12	12.30	N9W	69W	○	○	○	○	○	○	逆断層			○	
		12.43	N25W	60W	○	○	○	○	○	○	逆断層			○	
確認-3 ^{※2}	32	32.10	N40W	74W	×	○	○	○	○	○	逆断層			○	
		32.13	N17W	55W	○	○	○	○	○	○	逆断層			○	

※1 本ボーリングは、R1敷地-7ボーリングに認められる劣化部の連続性を確認するために実施している。

※2 確認-1～3ボーリングは、開削調査位置の選定を行うための事前確認調査として実施している。

※3 本ボーリングにおいては、F-1断層推定深度(約17m)付近に劣化部が認められないが、本ボーリング地点周辺のR1敷地-1ボーリング、開削調査箇所(北側)、確認-2及び確認-3ボーリングにおいて、F-1断層が確認されている状況等を踏まえ、深度約11.0～12.9mをF-1断層の存在が推定される範囲として位置付ける(P361～P367参照)。

※4 R1敷地-2ボーリング(φ86)におけるF-1断層の走向・傾斜。

※5 当該破砕帯は、X線CT画像観察(認定手順⑤ 低密度部の有無)において、連続する低密度部が認められるものの、直線性に乏しいことから、形成後何らかの要因により変形を受けていると推定されるため、活動時期が古い断層と判断される。この評価の妥当性を確認するため、当該破砕帯については、糸線観察(認定手順⑤ 面構造の有無)及び薄片観察(認定手順⑥)も実施した。

※6 当該破砕帯は、X線CT画像観察(認定手順⑤ 低密度部の有無)において、連続する直線的な低密度部は認められないことから、変質により形成されたと考えられ、変質帯であると判断されるものの、出現深度が深く、性状確認調査及び地質構造確認調査として実施したR1敷地-1～R1敷地-6ボーリングにおいて、性状を対比できないため、当該破砕帯については、糸線観察(認定手順⑤ 面構造の有無)及び薄片観察(認定手順⑥-2)も実施した。

■ : F-1断層の可能性を有する劣化部
(計17箇所)

■ : F-1断層の可能性を有する劣化部とは
判定されない劣化部
(計12箇所)

余白

R1敷地-2' ボーリング

①-1 R1敷地-2' ボーリング-まとめ(1/2) -

一部修正 (R1/11/7審査会合)

- 開削調査箇所(北側)及び開削調査箇所(南側)においては、F-1断層と考えられる断層が認められる。
- 当該断層をF-1断層と認定するため、F-1断層本体のデータ拡充を目的に実施した性状確認調査及び地質構造確認調査結果に基づき、F-1断層の性状・連続性の検討を実施した(調査位置は、P256参照)。
- F-1断層の性状については、F-1断層開削調査箇所と同位置で実施したR1敷地-2' ボーリング※1を基本とした。
- 本ボーリング調査の結果、F-1断層推定深度※2(約18m)付近には、F-1断層と類似した特徴を有する劣化部※3(約14.2~14.8m)が認められる。
- 当該劣化部は、走向・傾斜がF-1断層と類似※4し、F-1断層の可能性が考えられることから、劣化部中に認められる粘土部について、X線CT画像観察、条線観察及び薄片観察を行い、変位センス及び性状を確認した。
- 各種観察結果を下表に示す。

R1敷地-2' ボーリングにおける観察結果一覧

深度(m)	X線CT画像観察	条線観察	薄片観察	掲載頁
14.25	○低密度帯が認められる	○厚さ約1mmの軟質粘土が挟在する ○条線及び鏡肌は認められない	○全体に高干渉色を示す粘土鉱物が網状に分布する ○断層を示す組織は不明瞭で、強く変質の影響を受けている	P266~P271
14.30	○低密度帯が認められる	—※5	○全体に高干渉色を示す粘土鉱物が網状に分布する ○断層を示す組織は不明瞭で、強く変質の影響を受けている	P273~P277
14.57	○低密度帯が認められ、さらに連続する直線的な低密度部が認められる	○厚さ約1mmの軟質粘土が挟在する ○条線を伴う平滑な面構造が認められる ○レイク角は80° L	○約1mmの幅で粘土状破砕部が直線的に連続する ○あまり明瞭ではないものの、逆断層センスを示すP面や鉱物片の配列が認められる ○下盤には破砕した断層岩片が認められる	本編資料5.2章及びP278~P283
14.65	○低密度帯が認められる	○厚さ約15mmの軟質粘土が挟在する ○条線を伴う平滑な面構造が認められる ○レイク角は70° L	○粘土状破砕部はやや不明瞭だが、直線的に分布する ○粘土状破砕部と砂状破砕部は粘土状破砕部を伴わない高角な剪断面で変位している	P284~P289
14.79	○低密度帯が認められる	○厚さ約1~8mmの軟質粘土が挟在する ○条線及び鏡肌は認められない	○粘土状破砕部は連続するが、直線性に乏しい ○変位センスを示す複合面構造は認められない	P290~P295

※1 R1敷地-2'ボーリング(φ86)は、F-1断層開削調査箇所と同位置で実施していることから、F-1断層の性状確認の基本となるため、別孔(R1敷地-2' ボーリング: φ116)も掘削している。

※2 1,2号炉調査結果に基づくF-1断層の走向・傾斜より推定される深度。

※3 この段階では、「粘土を挟在若しくは付着する割れ目」を指す。本ボーリング調査結果を踏まえた、F-1断層が含まれる可能性のあるボーリングコア中の劣化部の定義については、本編資料5.2章参照。

※4 同位置で実施したR1敷地-2'ボーリング(φ86)において、当該劣化部と同深度に認められる同様な劣化部の走向・傾斜は、N11° W/58° W及びN13° W/53° W。

(参考) 1,2号炉調査において確認されたF-1断層の走向・傾斜は「N8° E~20° W/43° ~54° W」

※5 コア形状が砂礫状のため未実施。

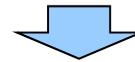


(次頁へ続く)

①-1 R1敷地-2' ボーリング-まとめ (2/2) -

再掲 (R1/11/7審査会合)

(前頁からの続き)

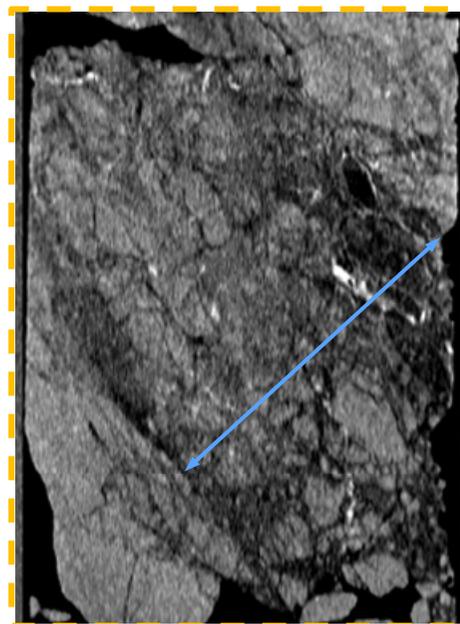
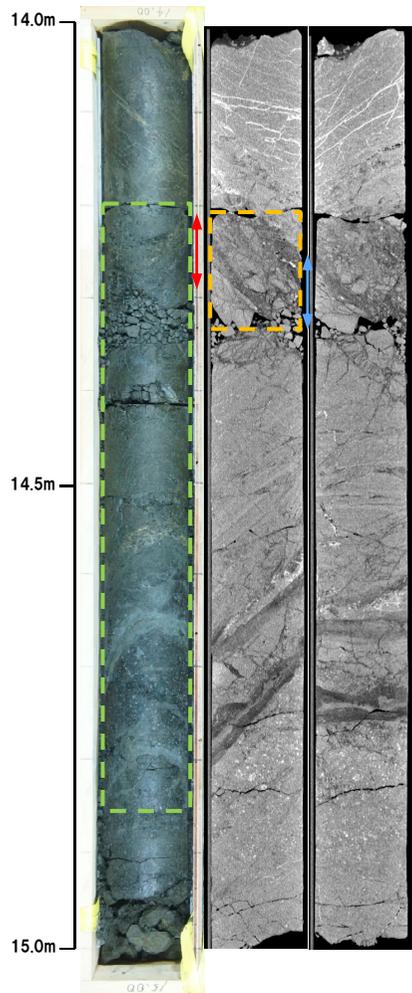


- 各種観察の結果、深度14.57mの粘土部がF-1断層の最新活動部であると判断される。
- 各種観察において認められるF-1断層の特徴は以下のとおり。
 - ・ボーリングコア観察の結果、未固結な粘土部が認められ、連続する直線的な面構造を伴う。
 - ・X線CT画像観察の結果、低密度帯が認められ、さらに連続する直線的な低密度部を伴う。
 - ・条線観察の結果、条線を伴う平滑な面構造が認められ、レイク角は70~80° Lである。
 - ・薄片観察の結果、直線的な分布を示す粘土状破碎部が認められ、その周辺に砂状破碎部及び角礫状破碎部が認められる。また逆断層センスを示す複合面構造が認められる。

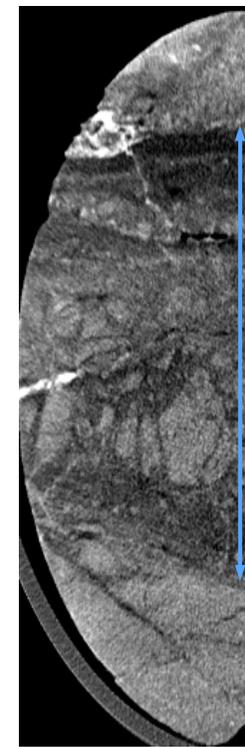
①-2 R1敷地-2' ボーリング (14.25m) -X線CT画像観察結果-

一部修正 (R1/11/7審査会合)

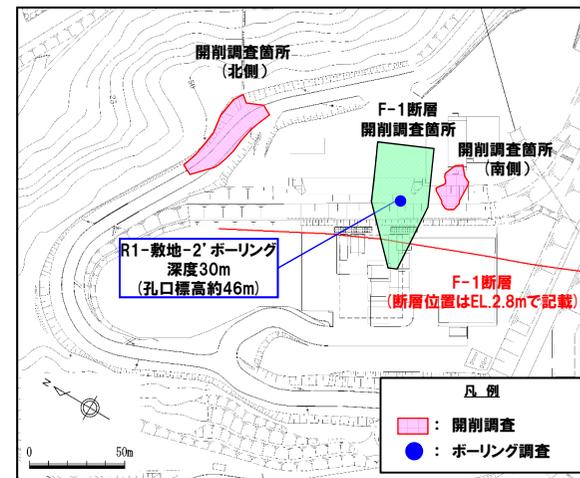
○X線CT画像観察の結果, 低密度帯が認められる。



傾斜方向断面
5cm

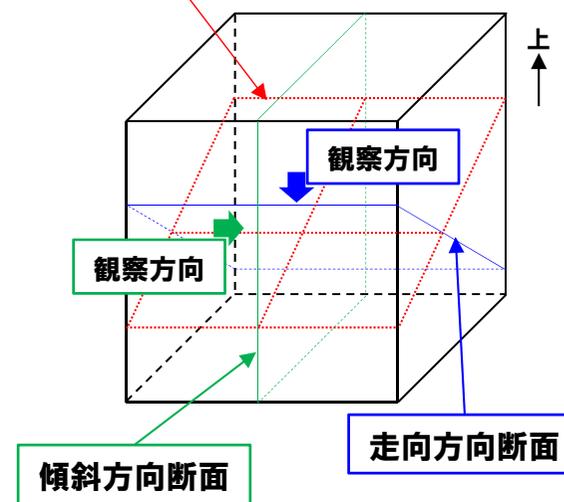


走向方向断面
5cm



調査位置図

粘土部中の面

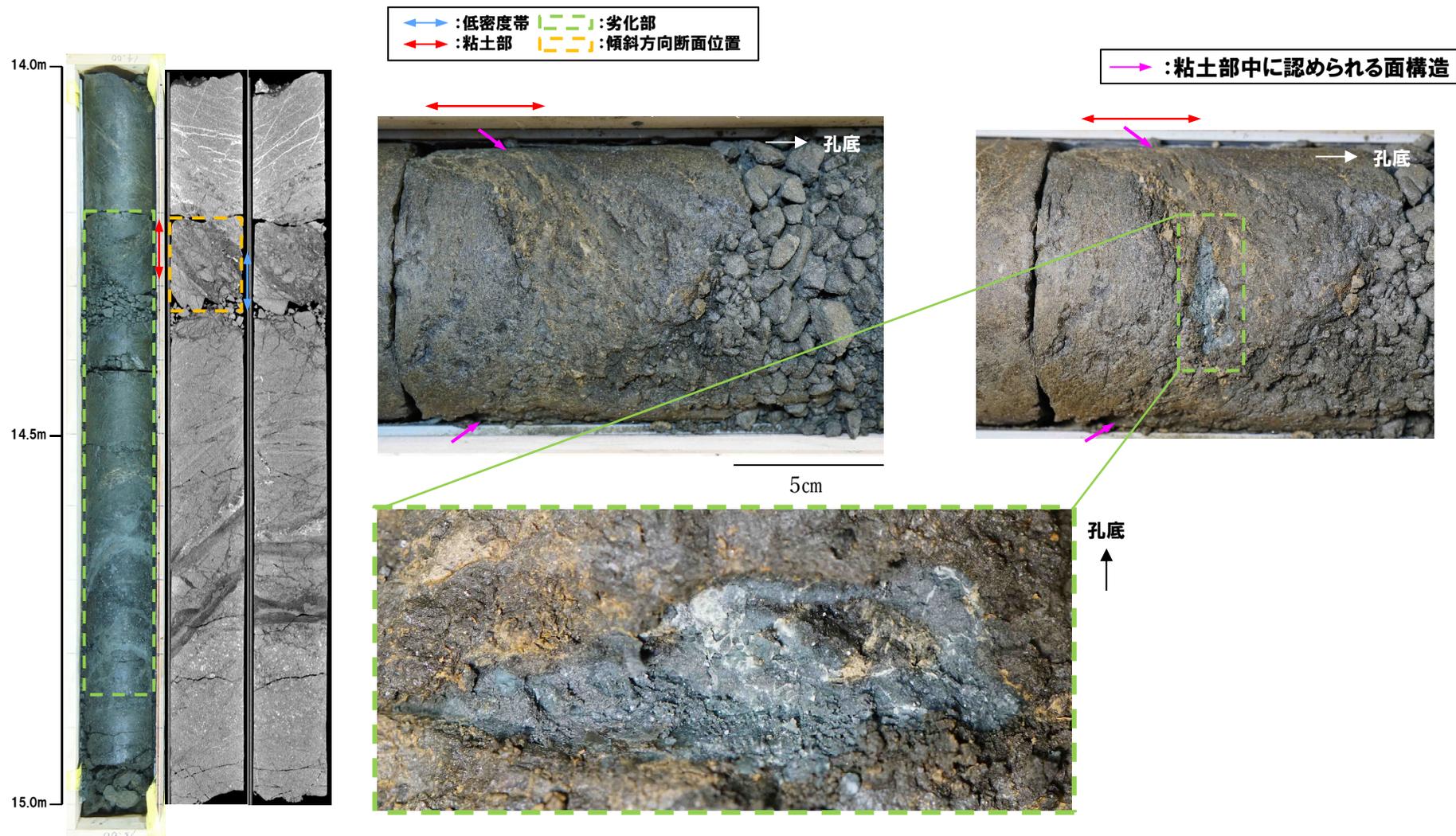


←→ : 低密度帯 |---| : 劣化部
 ←→ : 粘土部 |---| : 傾斜方向断面位置

①-2 R1敷地-2' ボーリング (14.25m) -条線観察結果-

再掲 (R1/11/7審査会合)

- 粘土部中に認められる面構造を浅部側から深部側へ観察を行った。
- 厚さ約1mmの軟質粘土の挟在が認められる。
- 当該面では平滑に剥離せず、条線及び鏡肌は認められない。

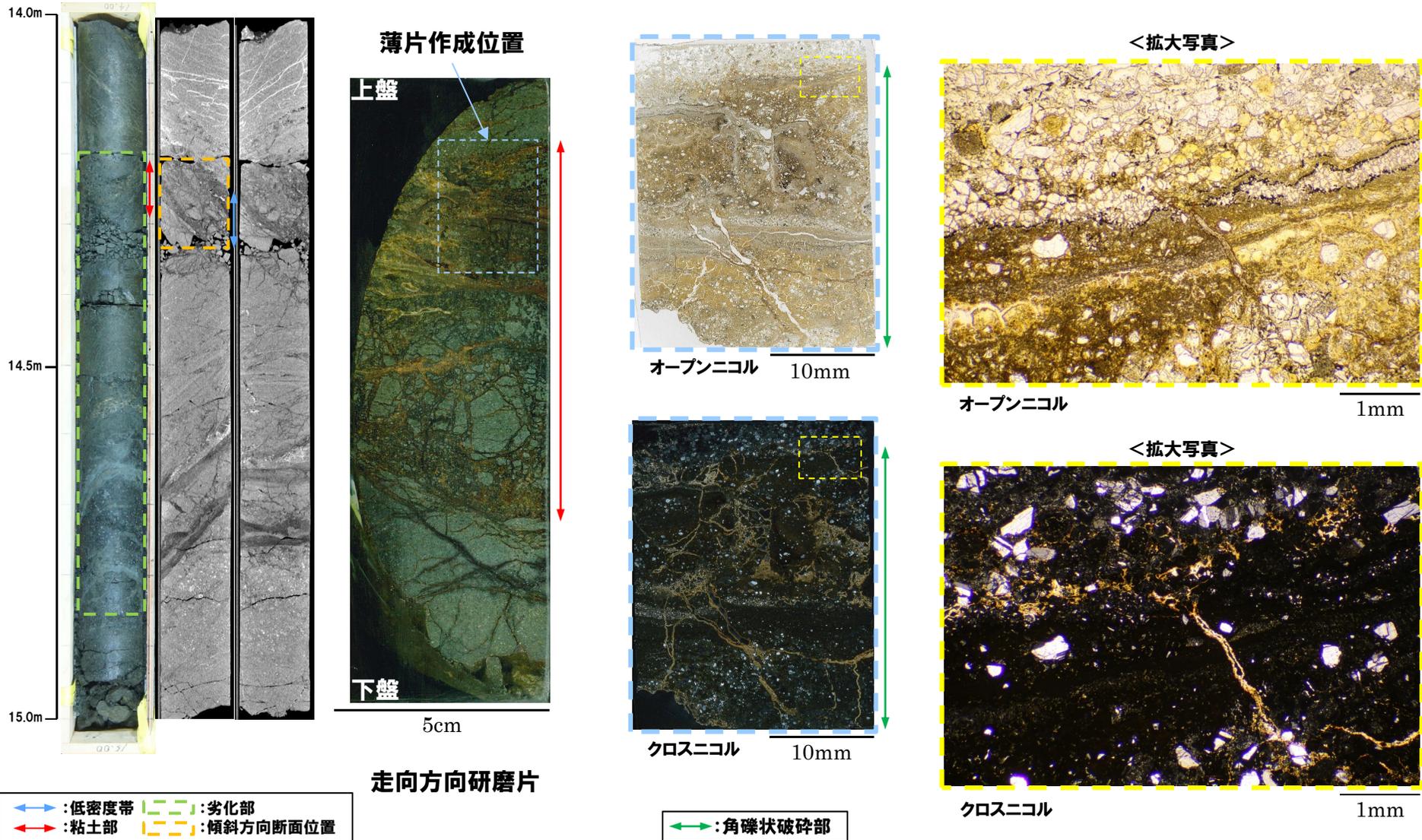


4. 各ボーリング孔において認められる劣化部の評価及びF-1断層の認定

①-2 R1敷地-2' ボーリング (14.25m) - 走向方向薄片観察結果 (1/2) -

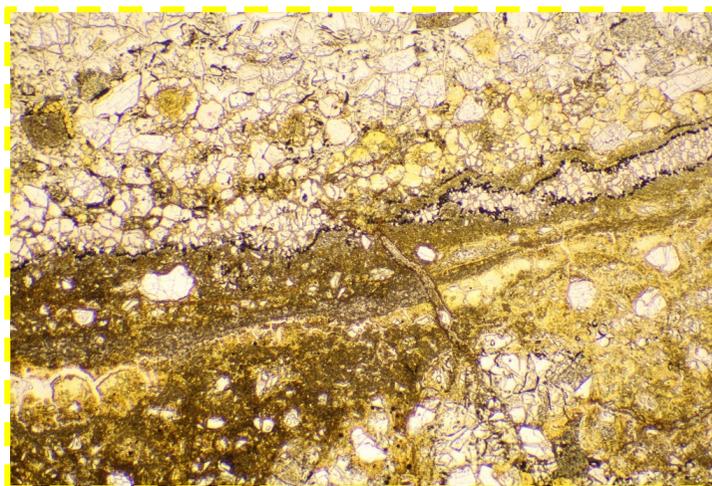
再掲 (R1/11/7審査会合)

- 全体に高干渉色を示す粘土鉱物が網状に分布する。
- 断層を示す組織は不明瞭で、強く変質の影響を受けている。



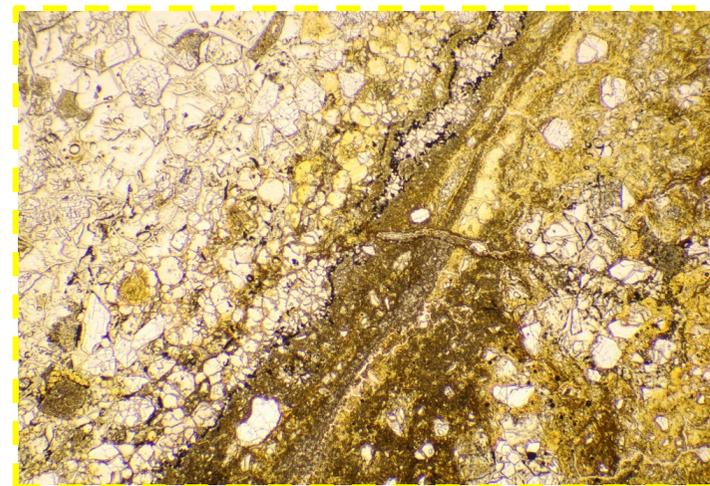
①-2 R1敷地-2' ボーリング (14.25m) - 走向方向薄片観察結果 (2/2) -

再掲 (R1/11/7審査会合)



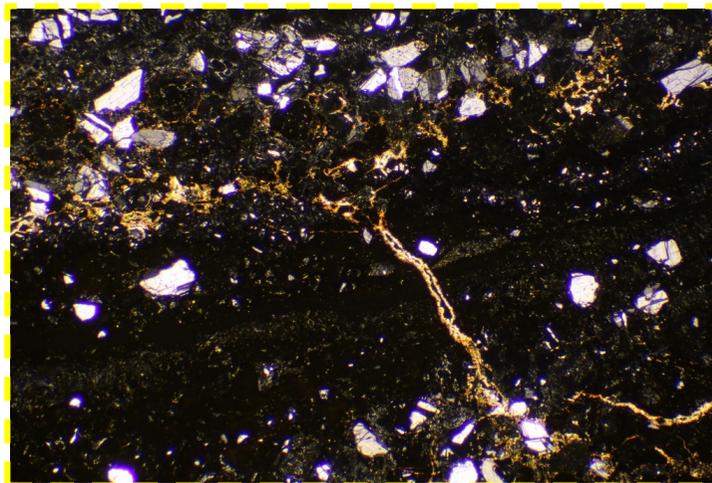
オープンニコル

1mm



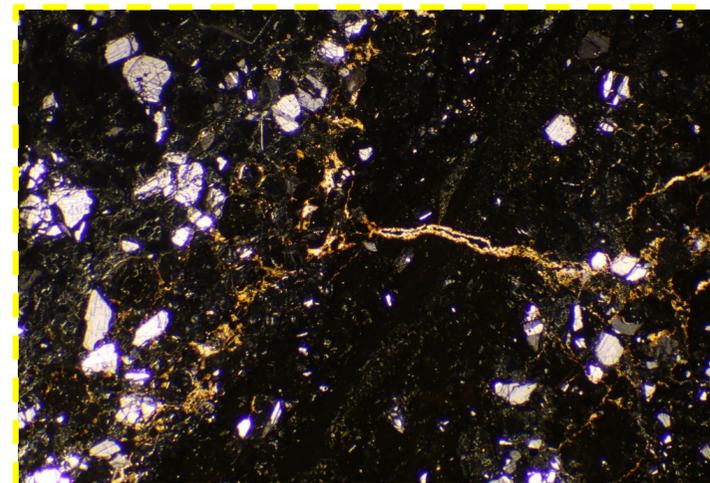
オープンニコル (左に45° 回転)

1mm



クロスニコル

1mm



クロスニコル (左に45° 回転)

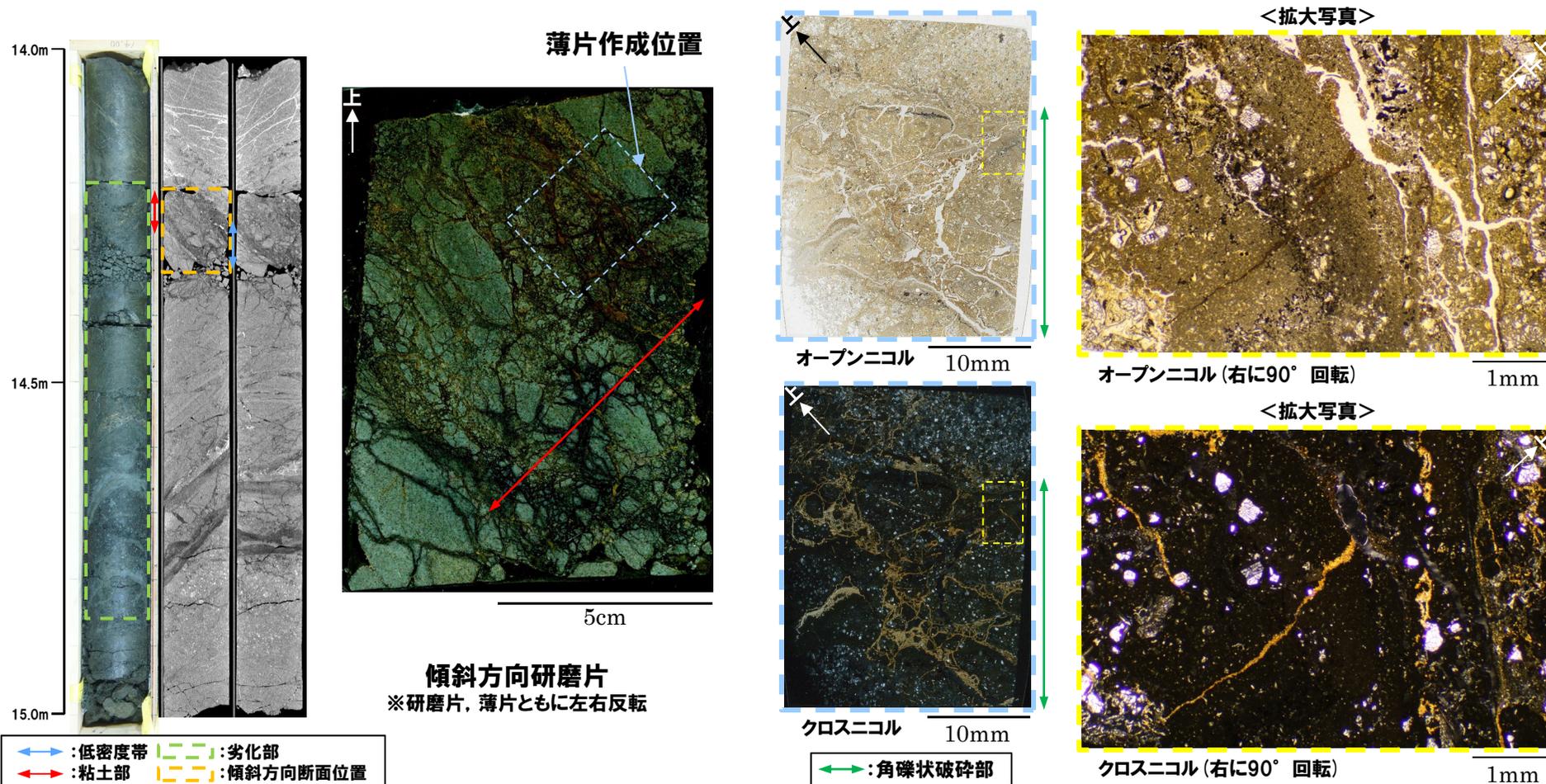
1mm

4. 各ボーリング孔において認められる劣化部の評価及びF-1断層の認定

①-2 R1敷地-2' ボーリング (14.25m) -傾斜方向薄片観察結果 (1/2) -

再掲 (R1/11/7審査会合)

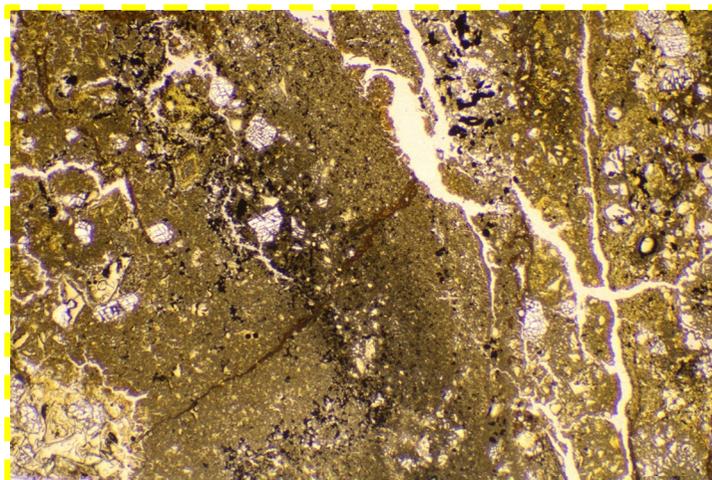
- 全体に高干渉色を示す粘土鉱物が網状に分布する。
- 断層を示す組織は不明瞭で、強く変質の影響を受けている。



○X線CT画像観察, 条線観察及び薄片観察の結果, 当該粘土部はF-1断層の最新活動部ではないものと判断される。

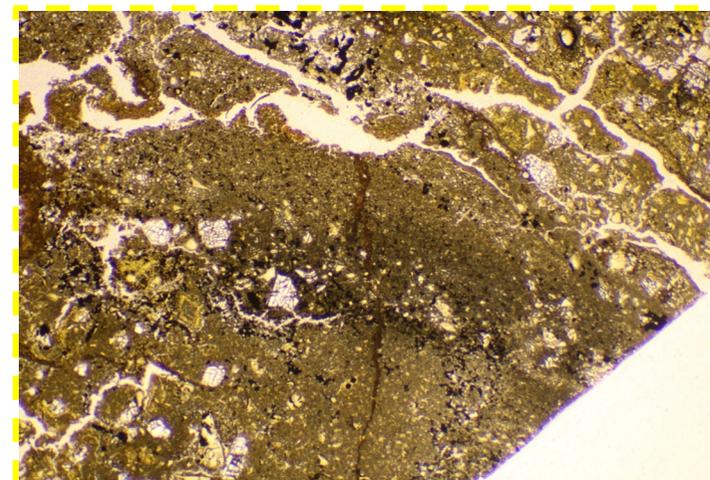
①-2 R1敷地-2' ボーリング (14.25m) - 傾斜方向薄片観察結果 (2/2) -

再掲 (R1/11/7審査会合)



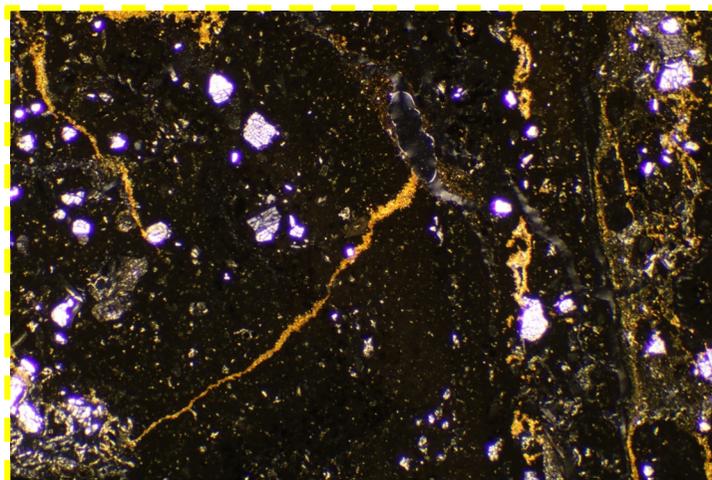
オープンニコル

1mm



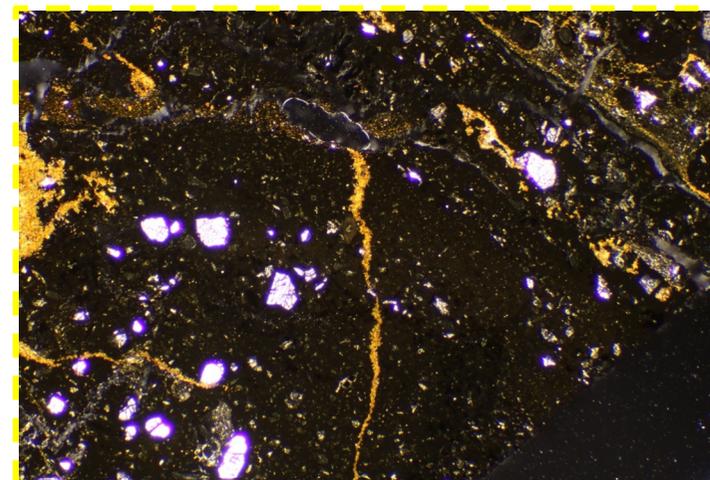
オープンニコル (左に45° 回転)

1mm



クロスニコル

1mm



クロスニコル (左に45° 回転)

1mm

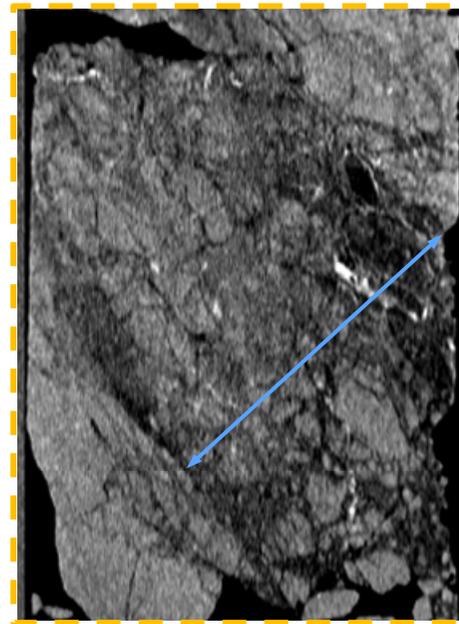
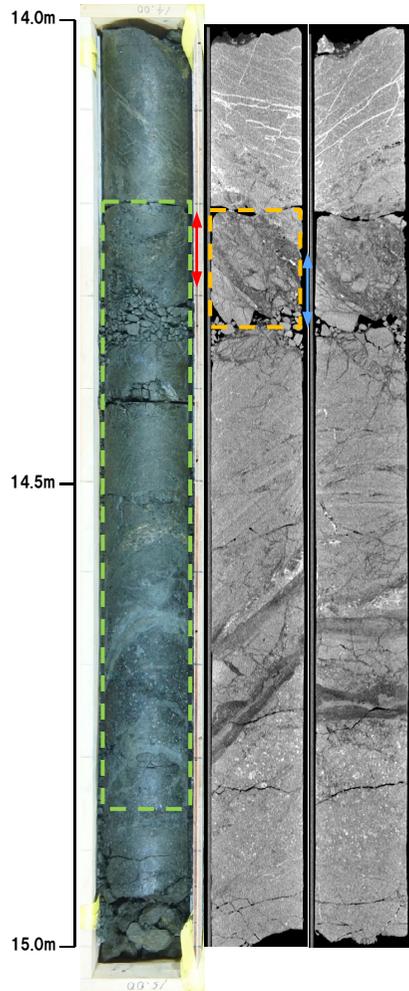
余白

4. 各ボーリング孔において認められる劣化部の評価及びF-1断層の認定

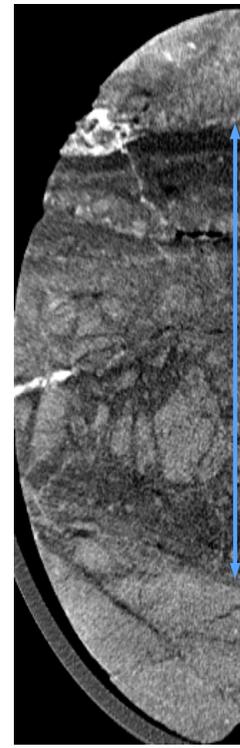
①-3 R1敷地-2' ボーリング (14.30m) -X線CT画像観察結果-

一部修正 (R1/11/7審査会合)

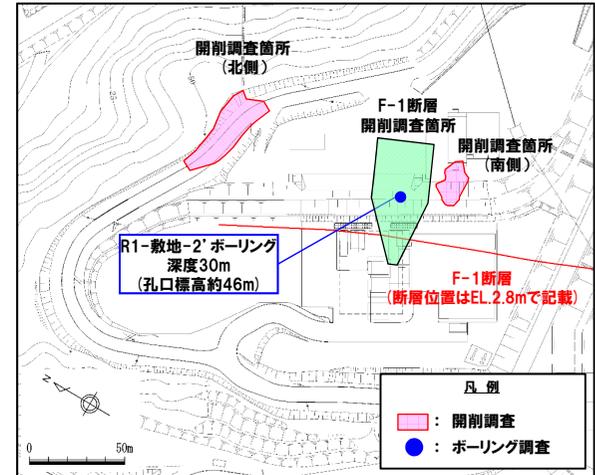
○X線CT画像観察の結果, 低密度帯が認められる。



傾斜方向断面

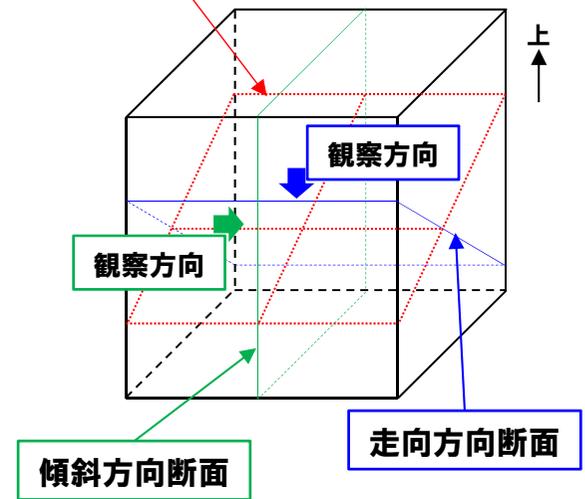


走向方向断面



調査位置図

粘土部中の面



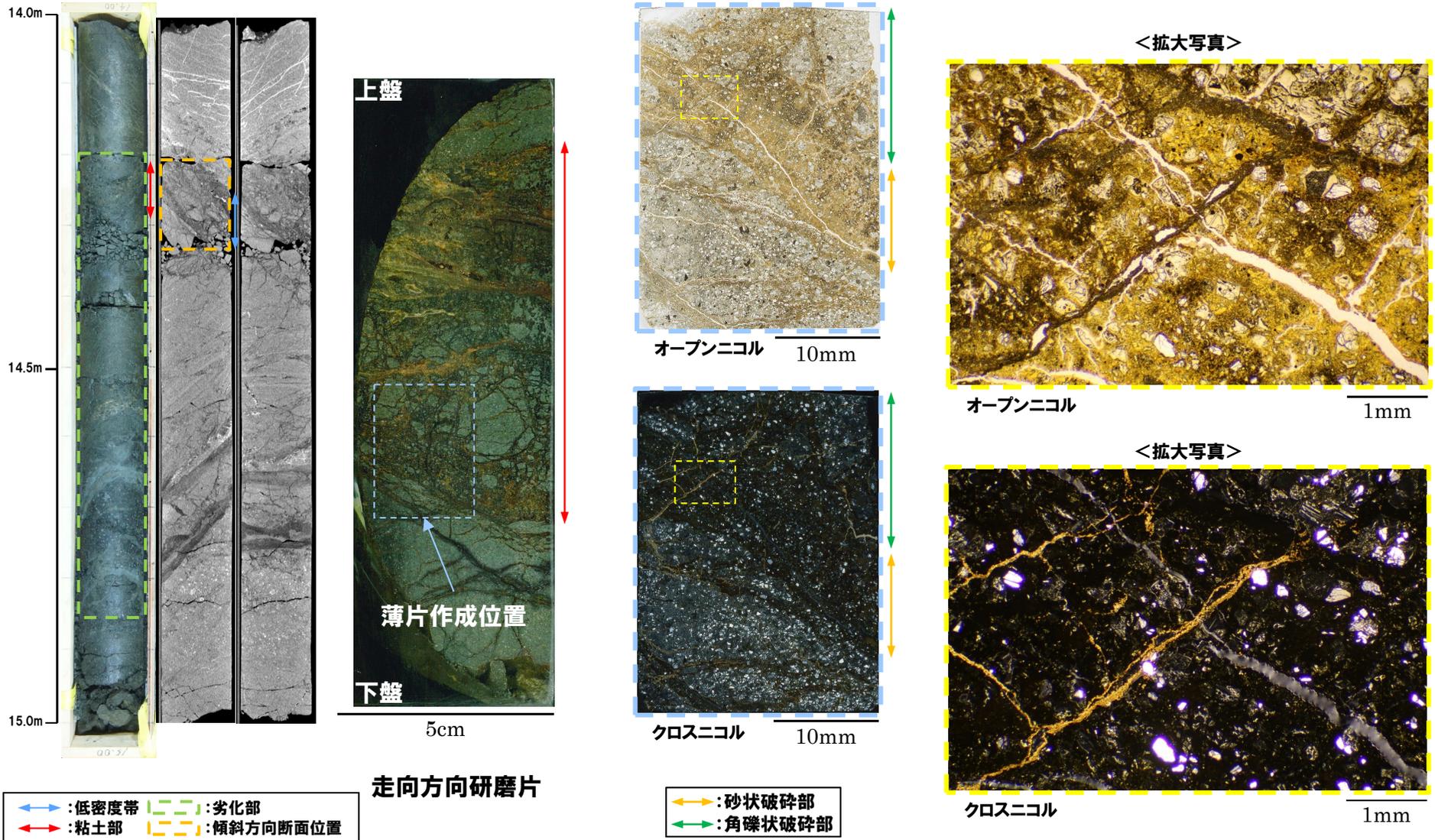
- ←→ : 低密度帯
- ←→ : 粘土部
- : 劣化部
- : 傾斜方向断面位置

4. 各ボーリング孔において認められる劣化部の評価及びF-1断層の認定

①-3 R1敷地-2' ボーリング (14.30m) -走向方向薄片観察結果 (1/2) -

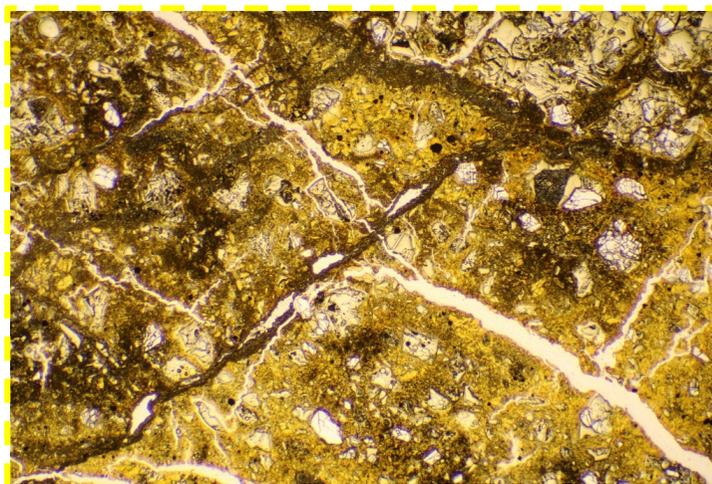
再掲 (R1/11/7審査会合)

- 全体に高干渉色を示す粘土鉱物が網状に分布する。
- 断層を示す組織は不明瞭で、強く変質の影響を受けている。



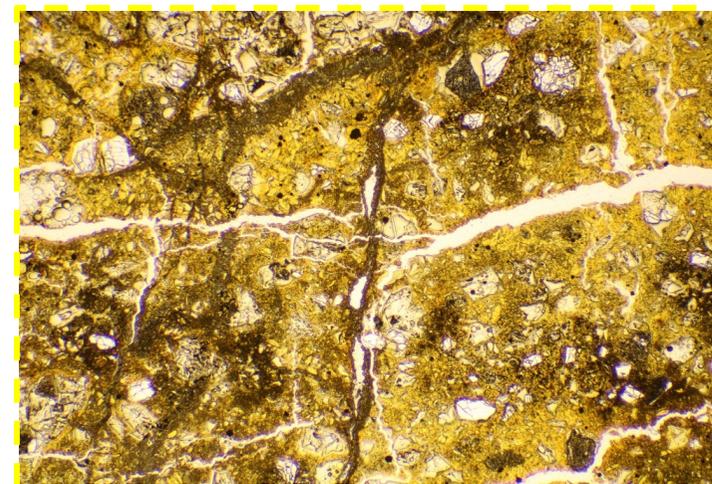
①-3 R1敷地-2' ボーリング (14.30m) - 走向方向薄片観察結果 (2/2) -

再掲 (R1/11/7審査会合)



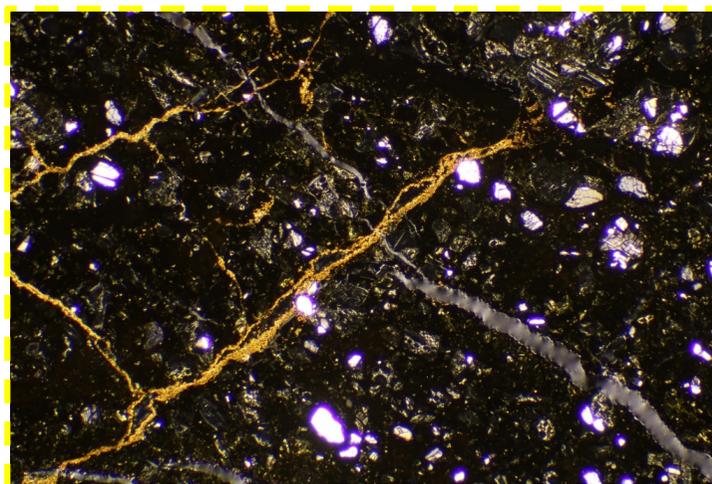
オープンニコル

1mm



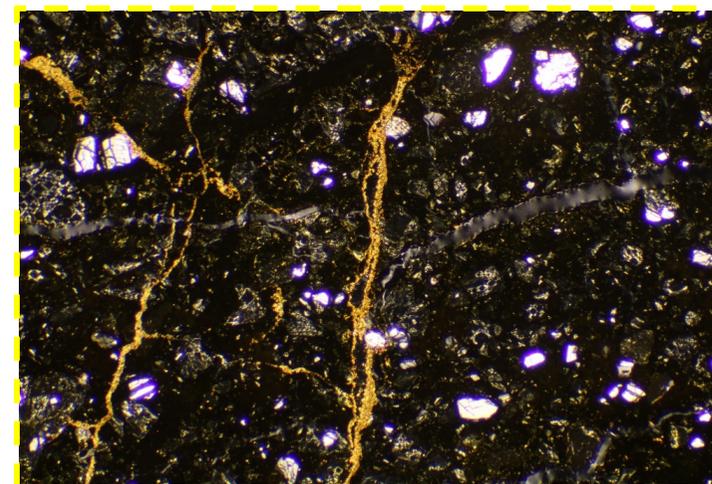
オープンニコル (左に45° 回転)

1mm



クロスニコル

1mm



クロスニコル (左に45° 回転)

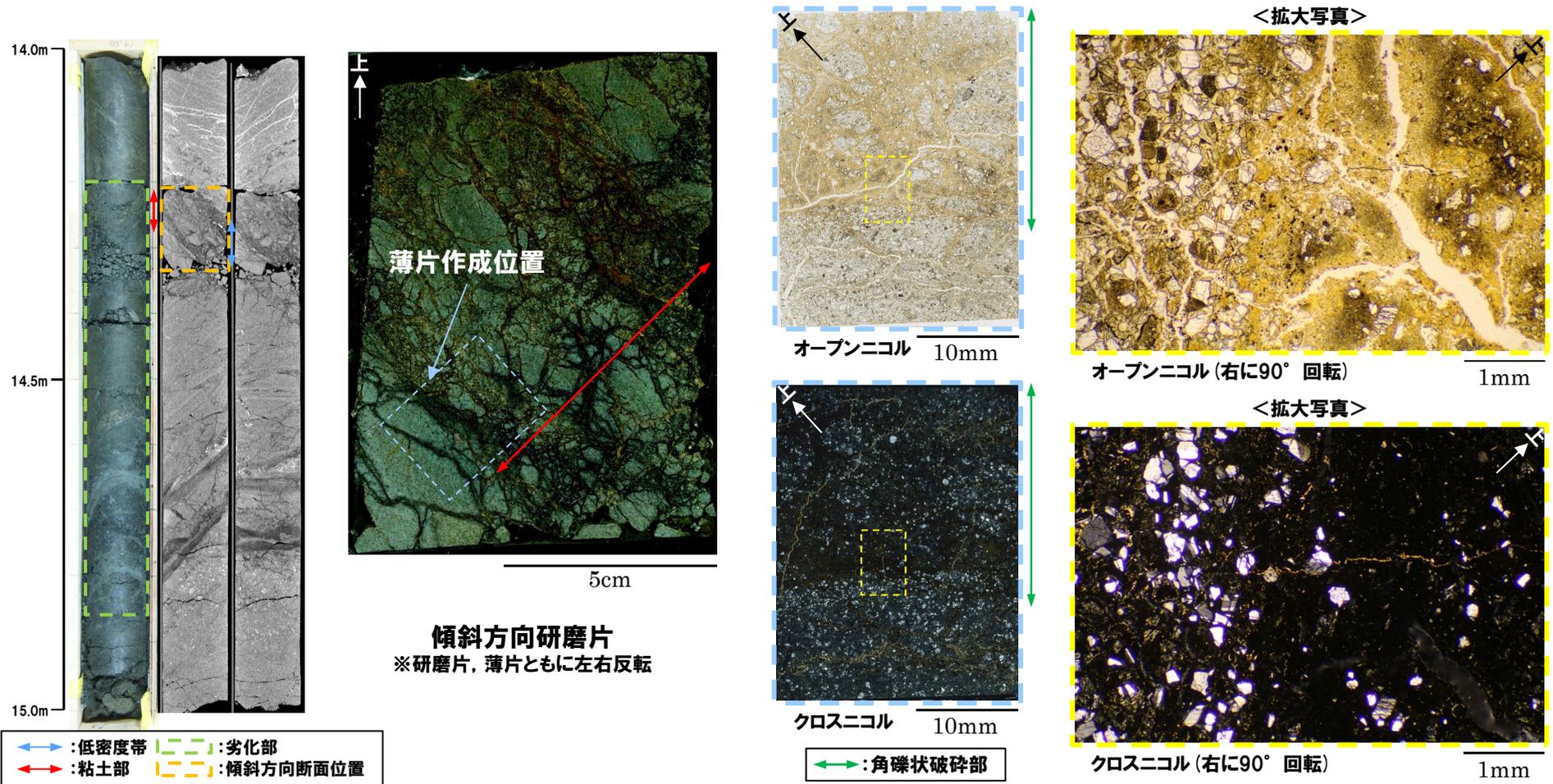
1mm

4. 各ボーリング孔において認められる劣化部の評価及びF-1断層の認定

①-3 R1敷地-2' ボーリング (14.30m) -傾斜方向薄片観察結果 (1/2) -

再掲 (R1/11/7審査会合)

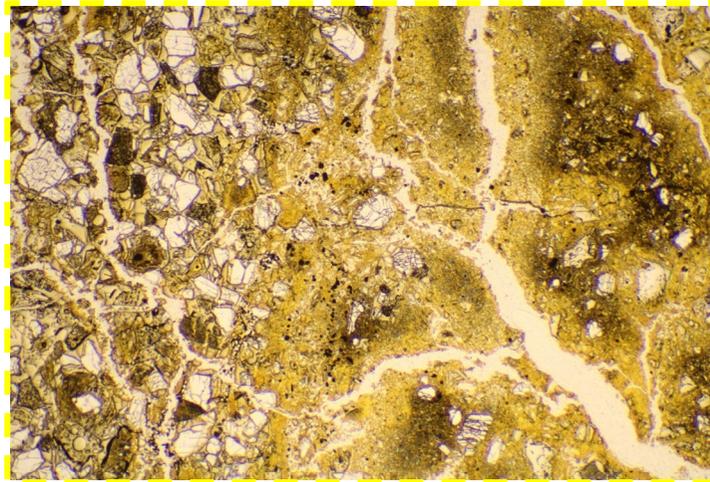
- 全体に高干渉色を示す粘土鉱物が網状に分布する。
- 断層を示す組織は不明瞭で、強く変質の影響を受けている。



○X線CT画像観察, 条線観察及び薄片観察の結果, 当該粘土部はF-1断層の最新活動部ではないものと判断される。

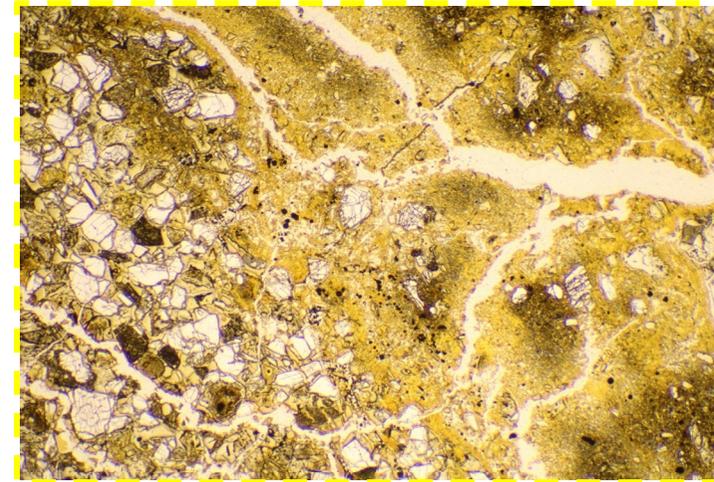
①-3 R1敷地-2' ボーリング (14.30m) - 傾斜方向薄片観察結果 (2/2) -

再掲 (R1/11/7審査会合)



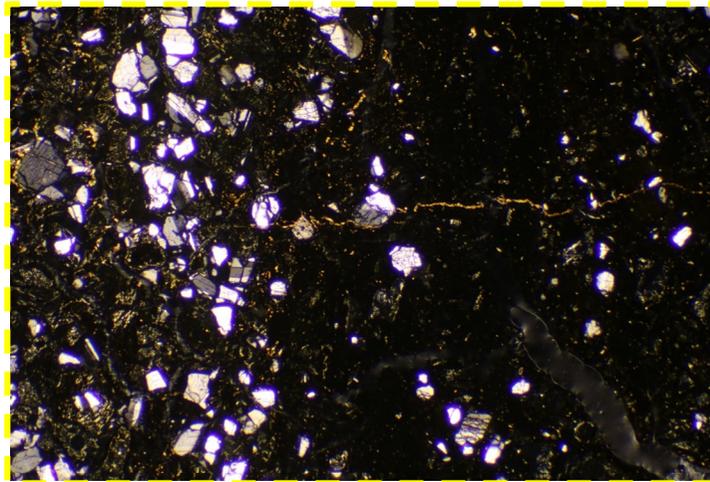
オープンニコル

1mm



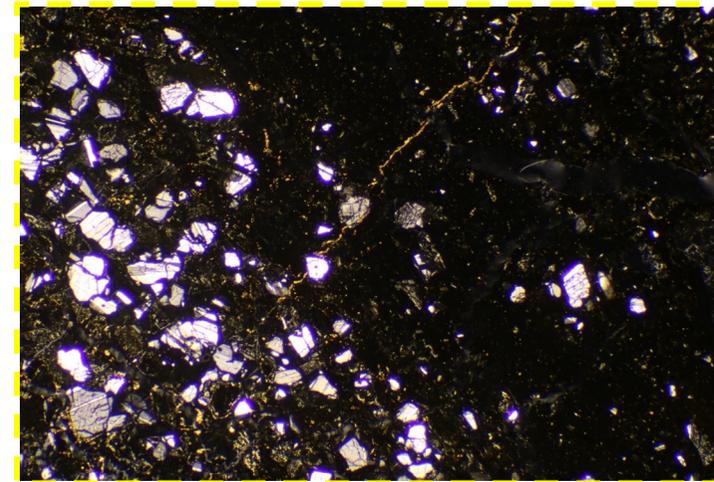
オープンニコル (左に45° 回転)

1mm



クロスニコル

1mm



クロスニコル (左に45° 回転)

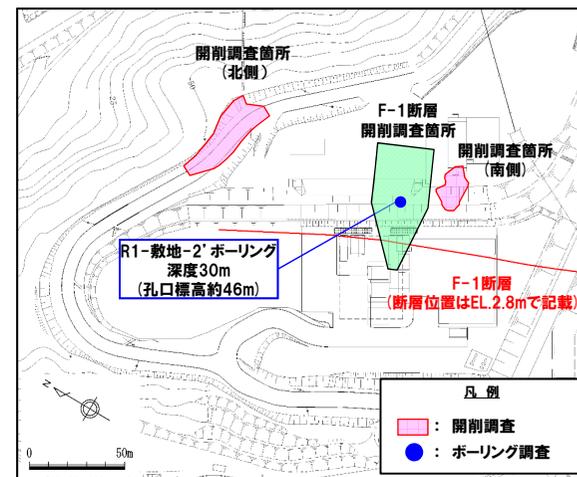
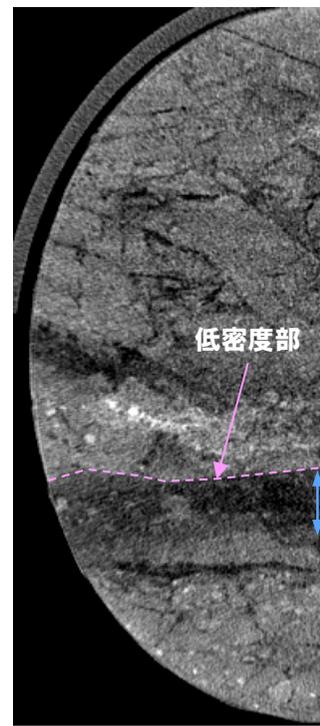
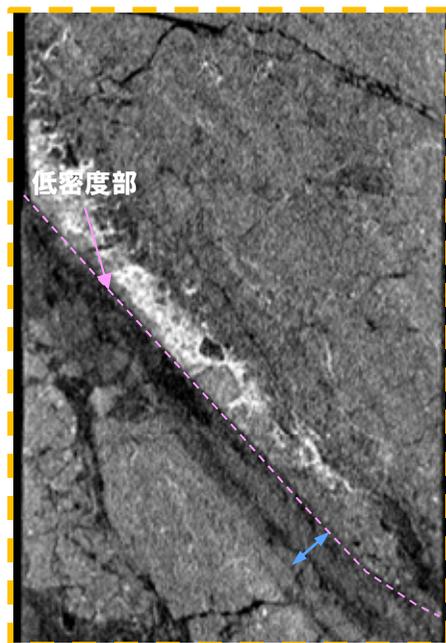
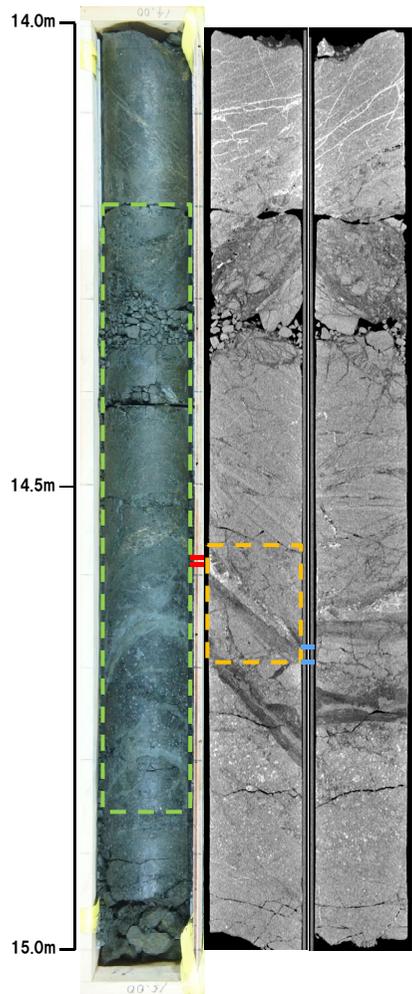
1mm

4. 各ボーリング孔において認められる劣化部の評価及びF-1断層の認定

①-4 R1敷地-2' ボーリング (14.57m) -X線CT画像観察結果-

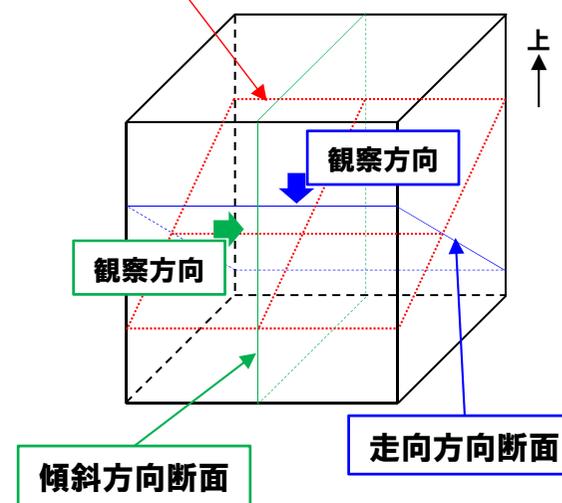
一部修正 (R1/11/7審査会合)

○X線CT画像観察の結果, 低密度帯が認められ, さらに連続する直線的な低密度部が認められる。



調査位置図

粘土部中の面



←→ : 低密度帯 |---| : 劣化部
 ←→ : 粘土部 |---| : 傾斜方向断面位置

4. 各ボーリング孔において認められる劣化部の評価及びF-1断層の認定

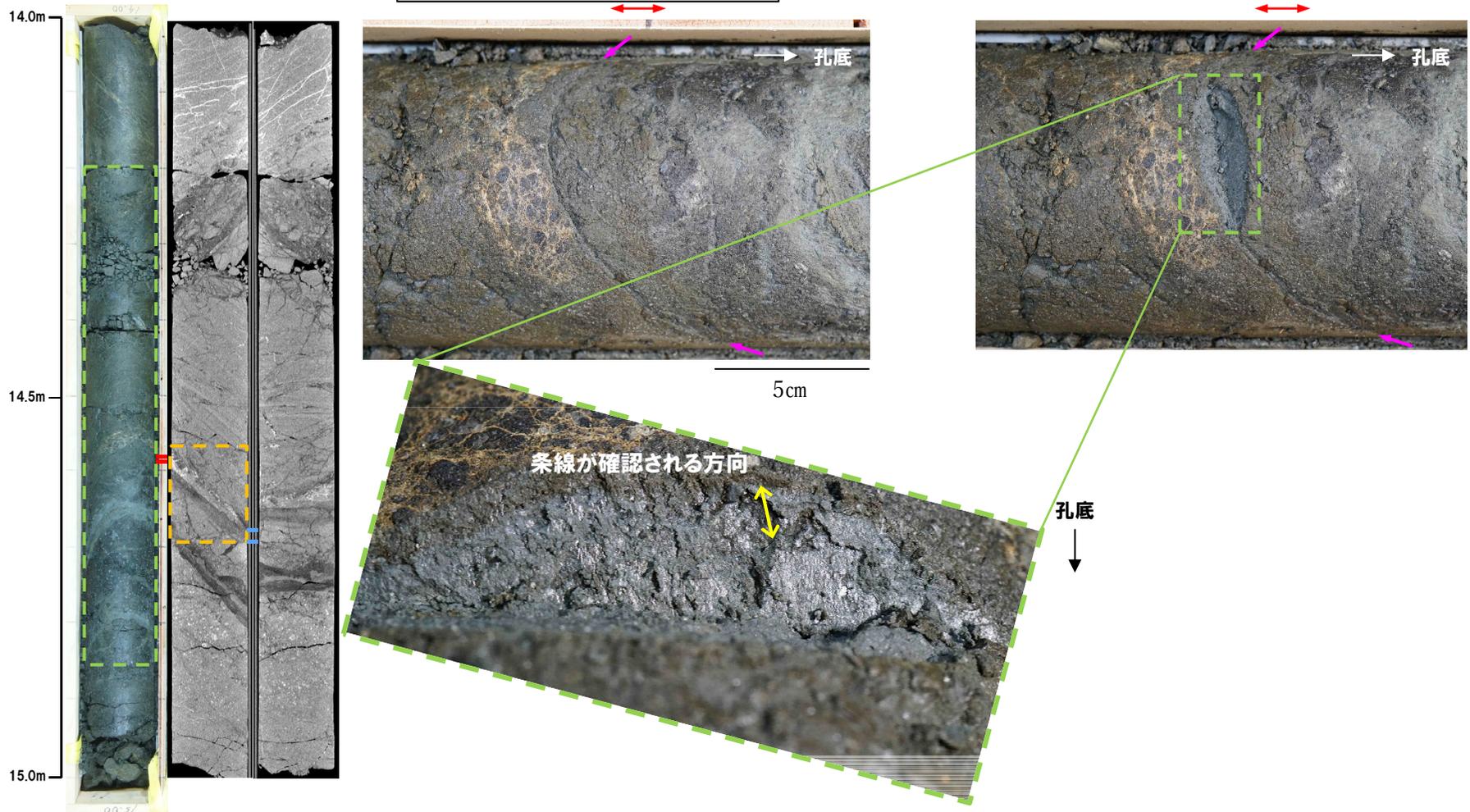
①-4 R1敷地-2' ボーリング (14.57m) -条線観察結果-

再掲 (R1/11/7審査会合)

- 粘土部中に認められる面構造を深部側から浅部側へ観察を行った。
- 厚さ約1mmの軟質粘土の挟在が認められる。
- 最急勾配方向と約10° 斜交する条線が認められ、浅部から深部方向に読み直すとレイク角は80° Lとなる。

←→ : 低密度帯 - - - : 劣化部
←→ : 粘土部 - - - : 傾斜方向断面位置

→ : 粘土部中に認められる面構造

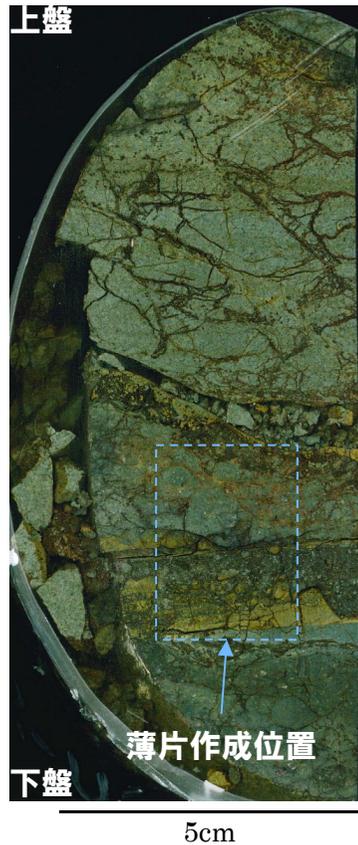
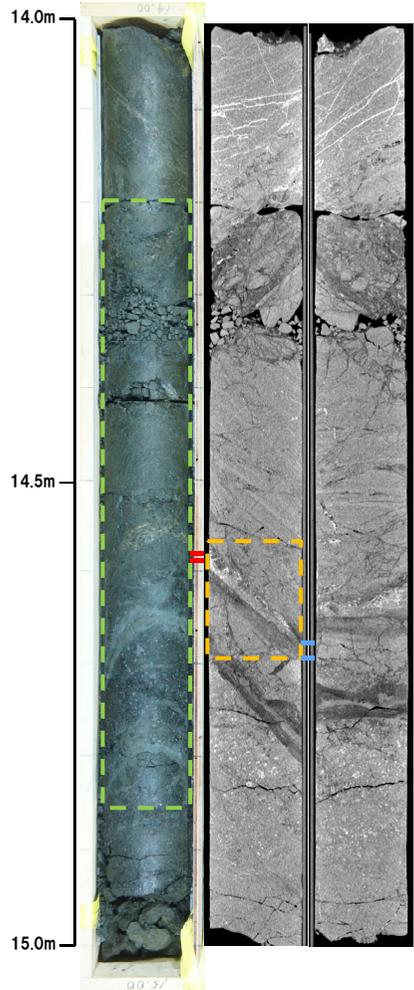


4. 各ボーリング孔において認められる劣化部の評価及びF-1断層の認定

①-4 R1敷地-2' ボーリング (14.57m) -走向方向薄片観察結果 (1/2) -

再掲 (R1/11/7審査会合)

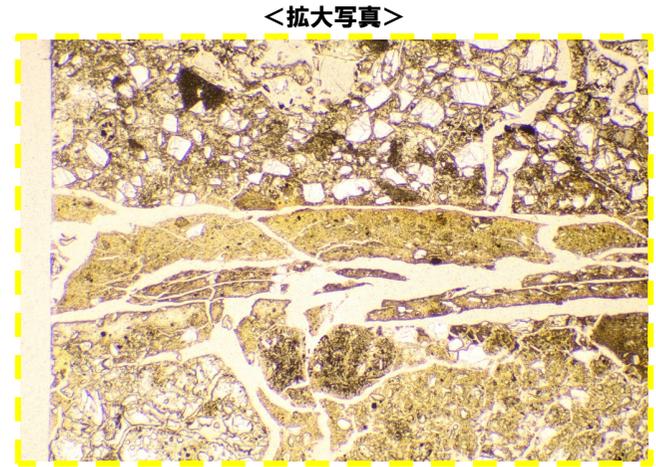
- 約1mmの幅で粘土状破碎部が直線的に連続する。
- 変位センスを示す明瞭な複合面構造は認められない。
- 下盤には破碎した断層岩片が認められる。



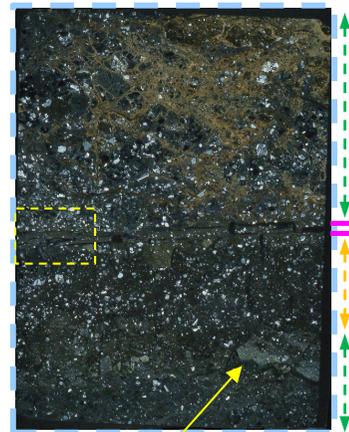
走向方向研磨片



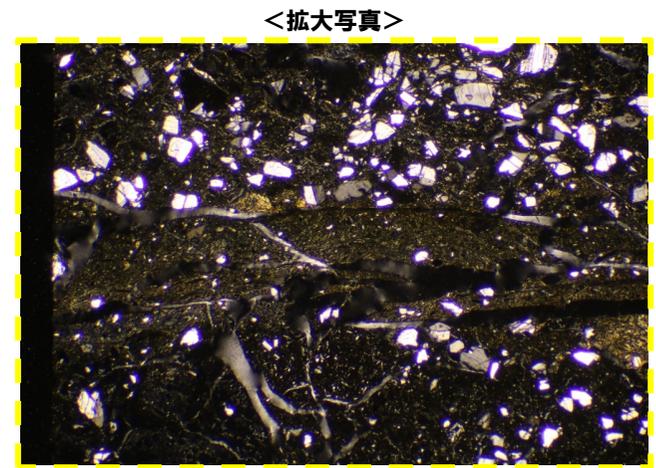
オープンニコル 10mm



オープンニコル 1mm



クロスニコル 10mm



クロスニコル 1mm

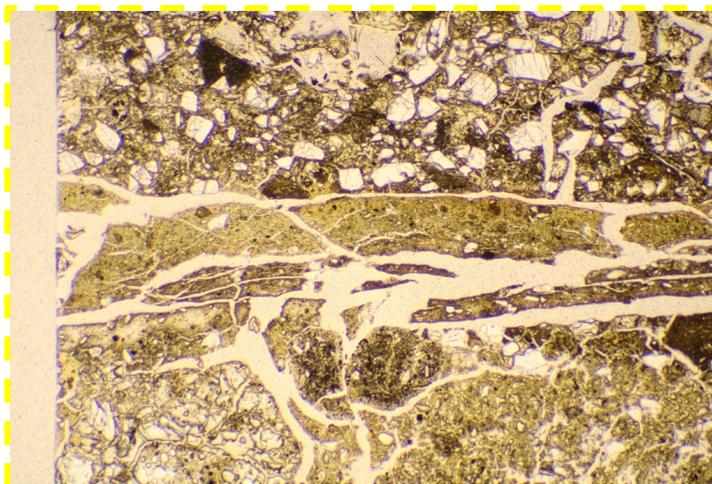
断層岩片

←→ : 低密度帯 | | : 劣化部
 ←→ : 粘土部 | | : 傾斜方向断面位置

←→ : 粘土状破碎部
 ←→ : 固結した砂状破碎部
 ←→ : 固結した角礫状破碎部

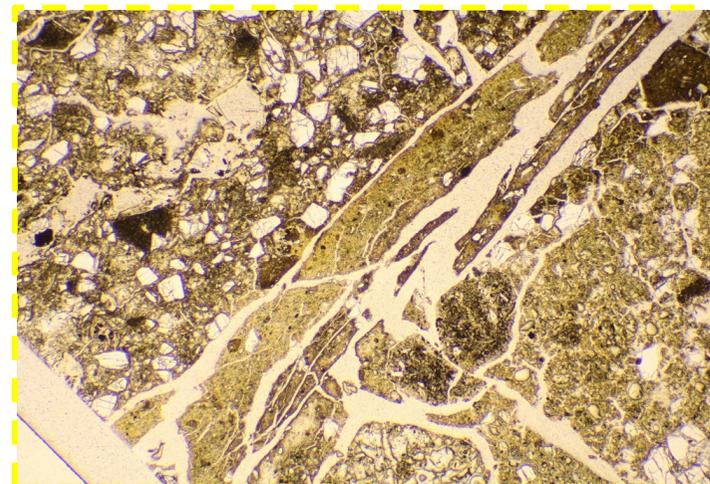
①-4 R1敷地-2' ボーリング (14.57m) - 走向方向薄片観察結果 (2/2) -

再掲 (R1/11/7審査会合)



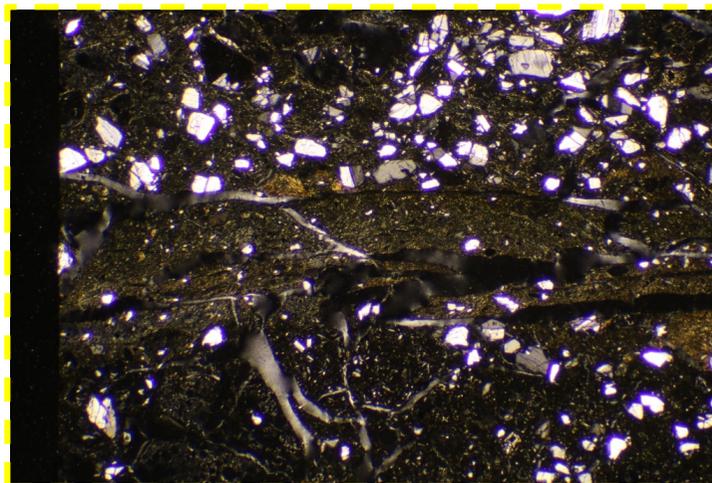
オープンニコル

1mm



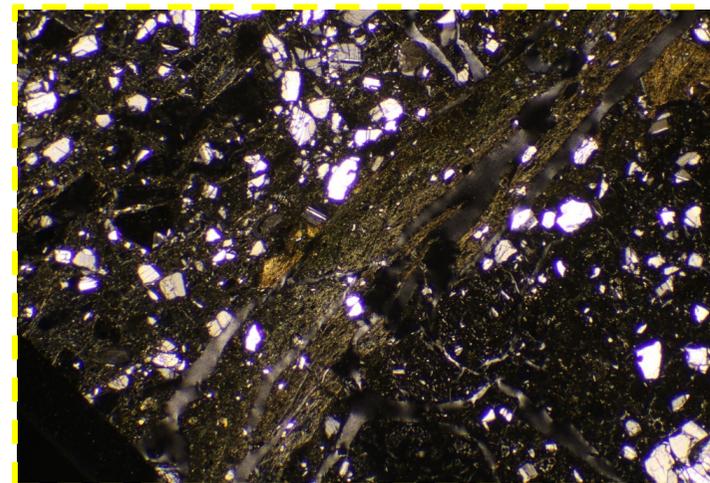
オープンニコル (左に45° 回転)

1mm



クロスニコル

1mm



クロスニコル (左に45° 回転)

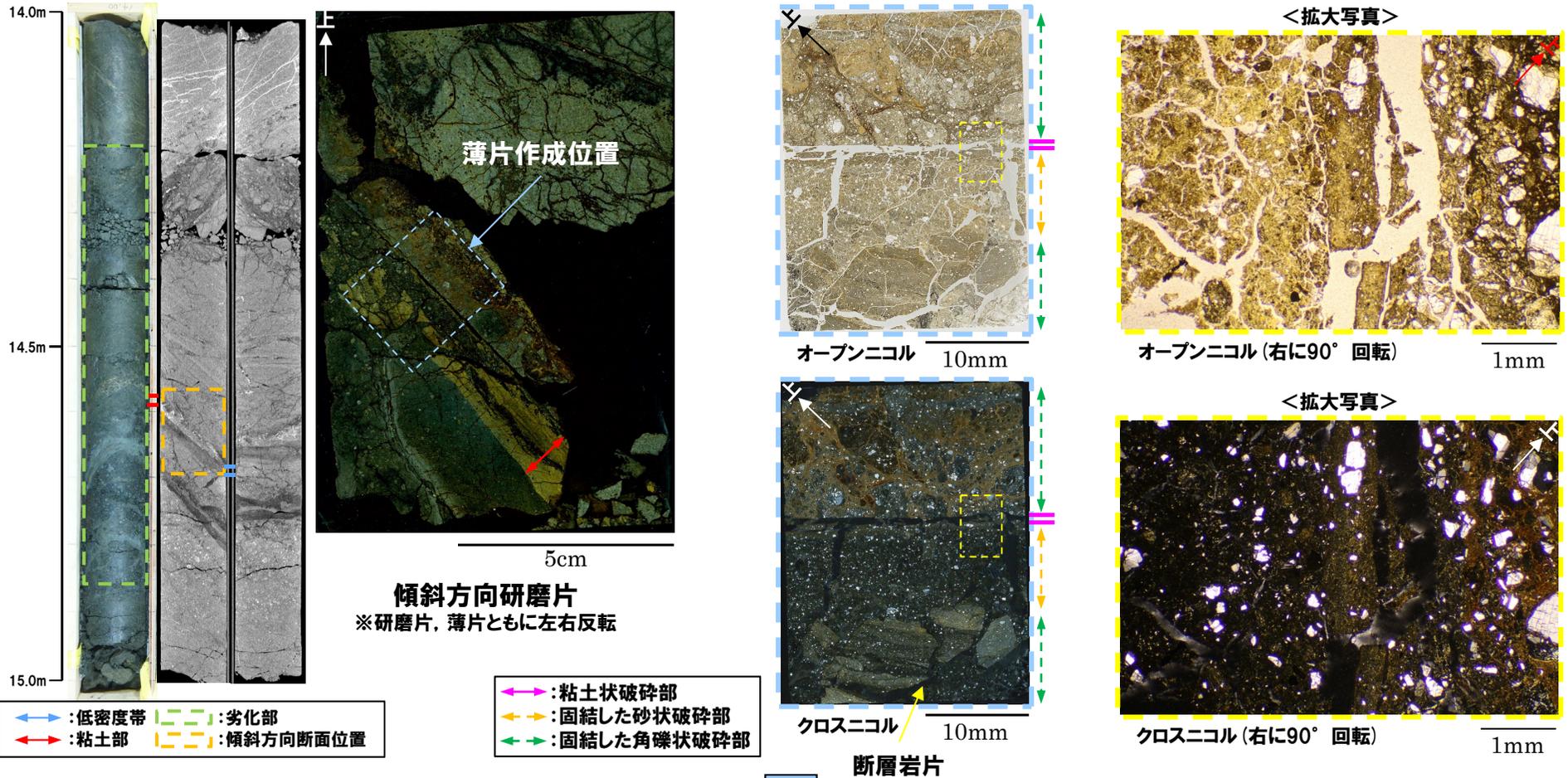
1mm

4. 各ボーリング孔において認められる劣化部の評価及びF-1断層の認定

①-4 R1敷地-2' ボーリング (14.57m) -傾斜方向薄片観察結果 (1/2) -

再掲 (R1/11/7審査会合)

- 約1mmの幅で粘土状破碎部が直線的に連続する。
- あまり明瞭ではないものの、逆断層センスを示すP面や鉱物片の配列が認められる。
- 下盤には破碎した断層岩片が認められる。

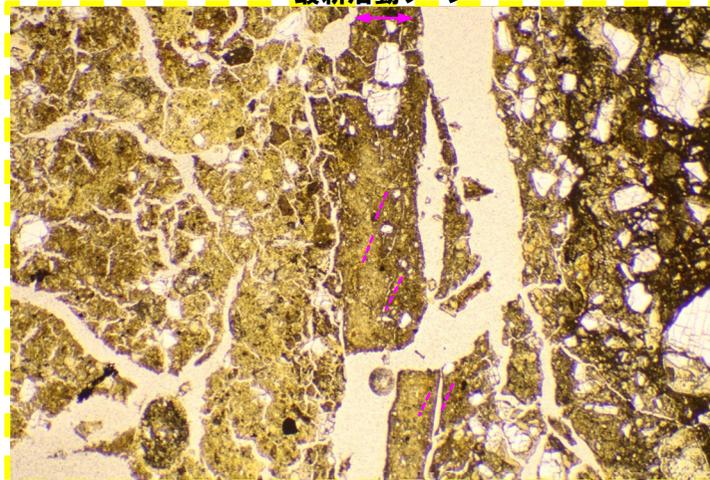


○X線CT画像観察, 条線観察及び薄片観察の結果, 当該粘土部はF-1断層の最新活動部であると判断される。

①-4 R1敷地-2' ボーリング (14.57m) - 傾斜方向薄片観察結果 (2/2) -

再掲 (R1/11/7審査会合)

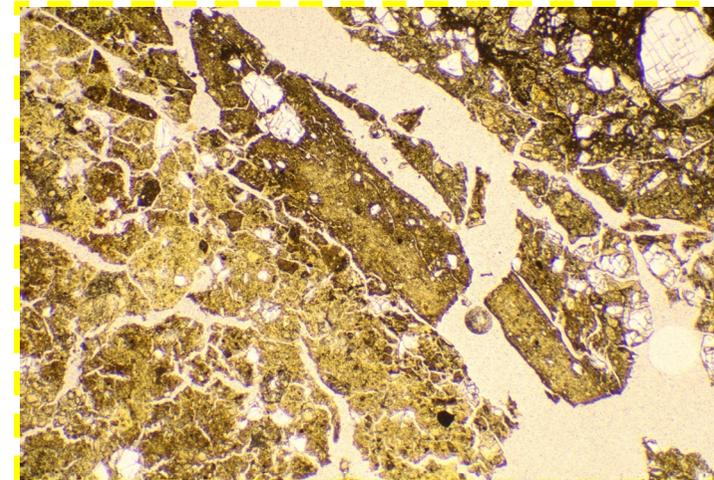
最新活動ゾーン



オープンニコル

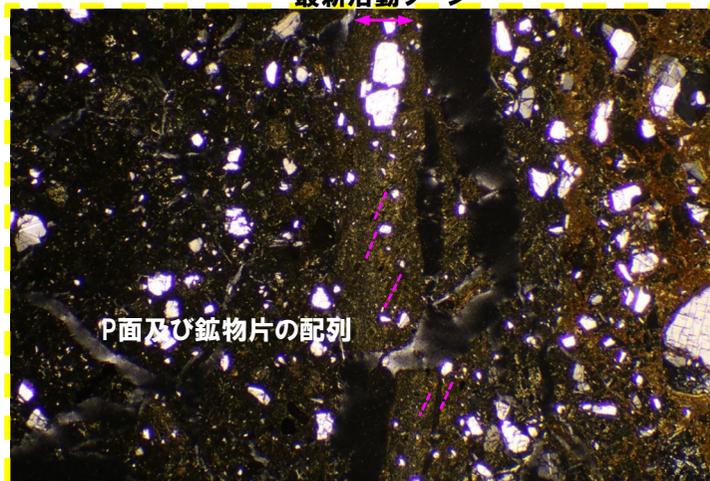
最新活動ゾーン

1mm



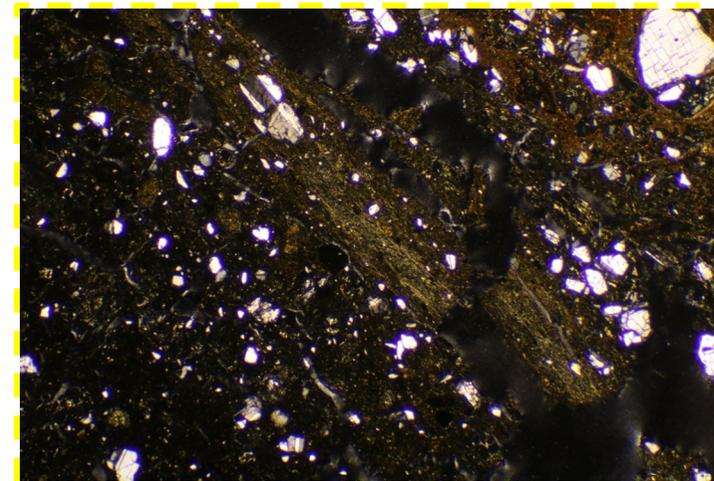
オープンニコル (左に45° 回転)

1mm



クロスニコル

1mm



クロスニコル (左に45° 回転)

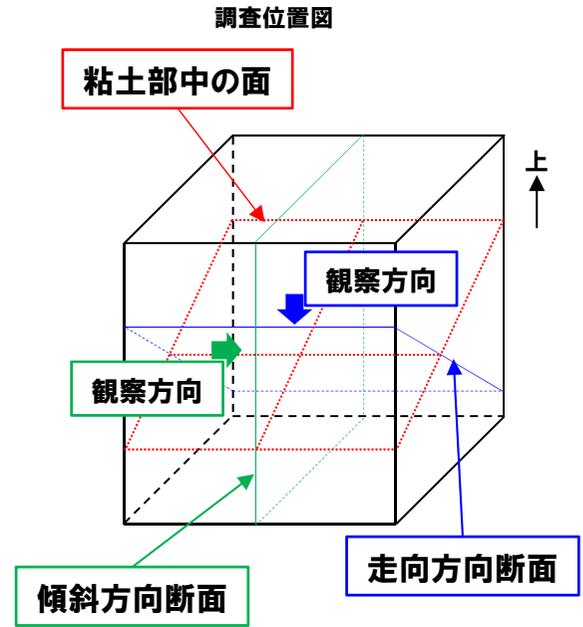
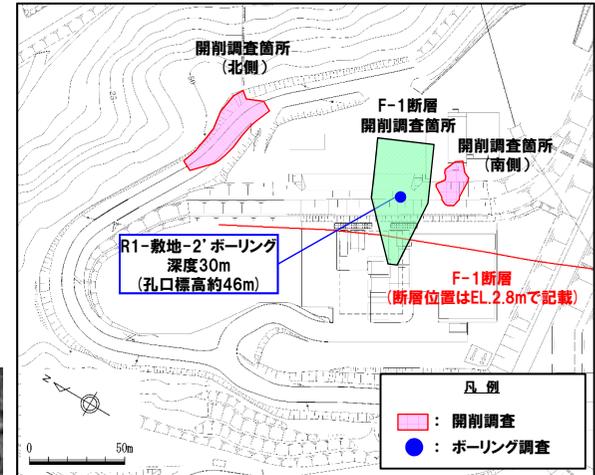
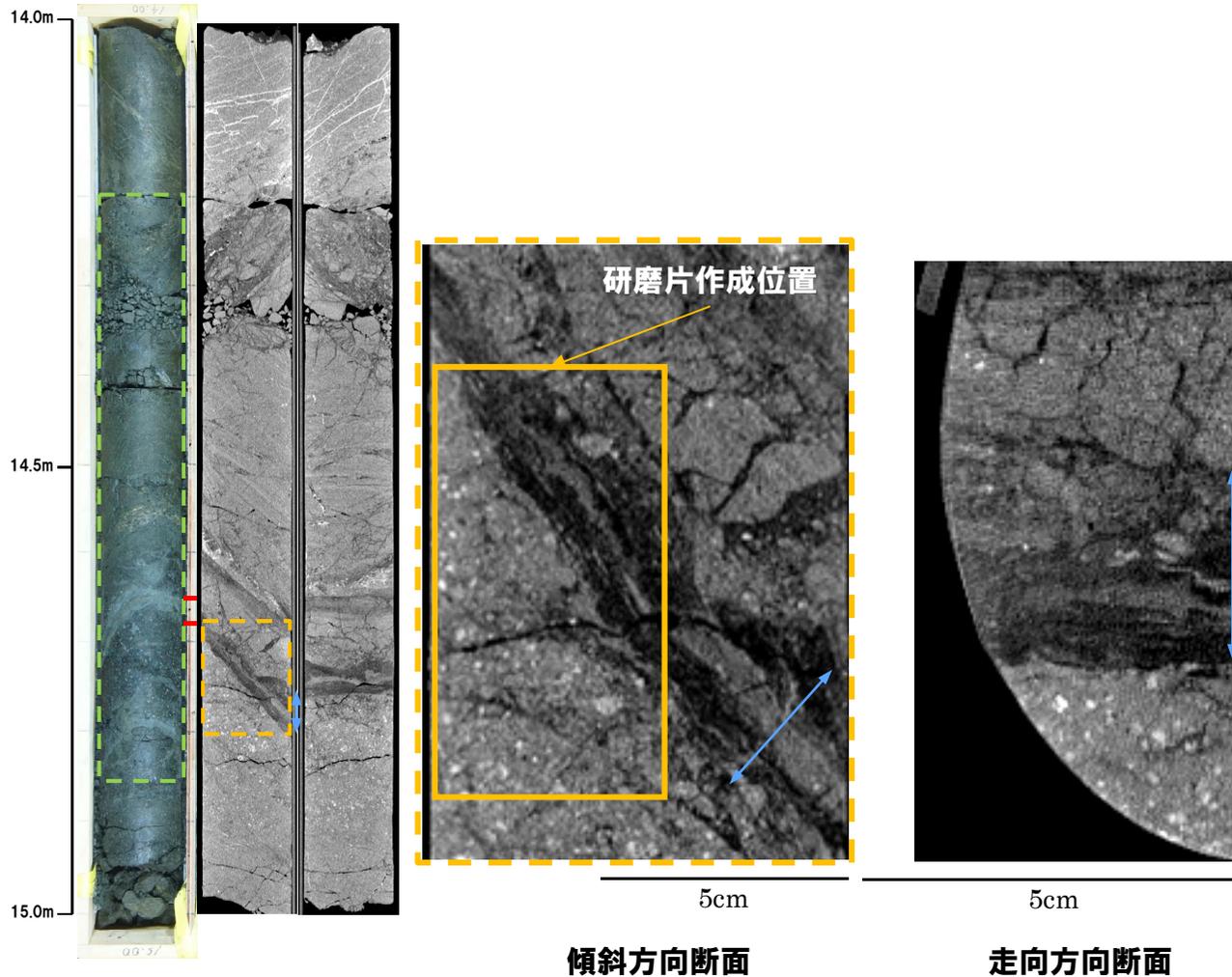
1mm

4. 各ボーリング孔において認められる劣化部の評価及びF-1断層の認定

①-5 R1敷地-2' ボーリング (14.65m) -X線CT画像観察結果-

一部修正 (R1/11/7審査会合)

○X線CT画像観察の結果, 低密度帯が認められる。



←→ : 低密度帯 | - - - : 劣化部
 ←→ : 粘土部 | - - - : 傾斜方向断面位置